

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																									
専門学校 名古屋ビジュアルアーツ		昭和52年4月1日		清水 禎徳		〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-16-23 (電話) 052-263-0906																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																									
学校法人Adachi学園		昭和58年4月1日		安達 暁子		〒102-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目11番地 (電話) 03-5283-6288																									
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																								
工業	工業専門課程	写真学科(昼間部)				平成13年文部科学省 告示24号	—																								
学科の目的		本学、写真学科は、職業教育の場として写真・広告業界において求められる実践的技術や、社会人としての基礎力を持ち、卒業後即戦力として活躍できるカメラマン、デザイナーなど撮影人材を育成することを目的とする。																													
認定年月日		昭和58年4月1日																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技																							
2年	昼間	120単位	20単位		72単位	24単位	—	12単位																							
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の)	専任教員数	兼任教員数		総教員数																							
80人		64人		3人	1人	11人		12																							
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目について、出席点最大20点、課題制作・作品提出・期末試験評価・授業内平常評価を総合し最大80点とし、61点以上を獲得した者について単位を認める。																									
長期休み	■学年始: 4月5日 ■夏季: 7月26日～9月5日まで ■冬季: 12月20日～翌年1月9日 ■学年末: 3月19日 ■春季: 3月20日～4月4日まで				卒業・進級 条件	所定の課程を修了し、試験に合格した者について素素の成績及び素行を勘酌して認める																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別学習支援・場合によっては、家庭訪問				課外活動	■課外活動の種類 地域イベントのボランティア参加 ■サークル活動: 有																									
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 写真館、フォトスタジオ、広告代理店 等				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																									
	■就職指導内容 個別面談・履歴書添削・面接練習 またキャリアガイダンス授業にて就職活動のやり方・就職意識を培うと共に、グループワークを通じ協調性コミュニケーション力を高める指導を行う。 ■卒業者数 24 人 ■就職希望者数 23 人 ■就職者数 22 人 ■就職率 96 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92 %					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄</p> <p>【受賞歴】 鶴崎 燃(2003年卒業) 2009年 第11回三木淳賞奨励賞 2010年度 ヤング・ポートフォリオ選出作品 2017年 日本写真協会新人賞</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	-	-	-	-														
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
-	-	-	-																												
中途退学 の現状	■中途退学者 5名 令和3年4月1日時点において、在学者61名(平成3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者56名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・経済的要因・病気 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任活動による家庭訪問、三者面談・心理カウンセラーによる「こころの相談室」設置				■中退率 8%																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 Adachi学園グループ名古屋地区校友会主催 学費支援金制度 一入学後10月申請、書類・面接結果に応じて、認定者は、5万円から30万円給付する制度 ・経済支援・・・学費支払い困難者対象 ・学業支援・・・自己研鑽による個々の活動で必要とする対象 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科の ホームページ URL	https://www.n-visual.net/course/photo/																														

<p>1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係</p>																															
<p>(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>各分野のエキスパートになるための専門知識・技術の習得と教養豊かな人間を形成する境域により、社会人基礎力・人間力・基礎学力を基本とし、専門知識・技術の習得と実務への適応力、自己啓発・自己形成の意欲向上、社会貢献できる人材を育成する授業カリキュラムの編成をおこなう。授業カリキュラムの編成にあたり、本校の職員のみならず、外部の企業・業界の有識者と連携し、より実践的な授業科目の開設や業界の動向を含めた授業内容の改善をおこなうことを基本方針とする。</p>																															
<p>(2)教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記 学科運営の取決事項に係る会議体において、本委員会での事案を審議する位置付けとする。</p> <p><教育課程編成委員会の位置づけ></p> <p>校長の下に組織され、教育基本法、学校教育法及び専修学校設置基準、専門学校名古屋ビジュアルアーツの定める諸規定に基づき、教育カリキュラムを編成する。</p> <p><委員会審議が採用されるプロセス></p> <p>1.教育課程編成委員会における提案・改善等の事項 ↓ 2.校長は、学科長に対して、教育課程編成委員会における提案・改善等の事項を踏まえた授業カリキュラムを作成 ↓ 3.校長は、2.で作成した改定案のとりまとめを行う ↓ 4.校長は、評議会・理事会(学科運営の取決事項に係る会議体)において、事案の審議要求を行う ↓ 5.議決(採用内容は、学則等へ反映し、授業カリキュラムを変更)</p>																															
<p>(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">令和4年7月31日現在</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊藤 武博</td> <td>一般社団法人 日本写真文化協会</td> <td>令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>谷 奉宏</td> <td>サンメッセ株式会社</td> <td>令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>市川 裕之</td> <td>光映写真館</td> <td>令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>清水禎徳</td> <td>名古屋ビジュアルアーツ学校長</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>南野 想</td> <td>名古屋ビジュアルアーツ学務責任者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山田佳毅</td> <td>名古屋ビジュアルアーツ事務長</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>				名前	所属	任期	種別	伊藤 武博	一般社団法人 日本写真文化協会	令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)	①	谷 奉宏	サンメッセ株式会社	令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)	③	市川 裕之	光映写真館	令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)	③	清水禎徳	名古屋ビジュアルアーツ学校長			南野 想	名古屋ビジュアルアーツ学務責任者			山田佳毅	名古屋ビジュアルアーツ事務長		
名前	所属	任期	種別																												
伊藤 武博	一般社団法人 日本写真文化協会	令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)	①																												
谷 奉宏	サンメッセ株式会社	令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)	③																												
市川 裕之	光映写真館	令和3年3月21日 ～令和5年3月20日(2年)	③																												
清水禎徳	名古屋ビジュアルアーツ学校長																														
南野 想	名古屋ビジュアルアーツ学務責任者																														
山田佳毅	名古屋ビジュアルアーツ事務長																														
<p>(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期)</p> <p>年2回 年度の中間期及び、年度末に各一回ずつ を基本とする。</p> <p><開催日時 令和3年度実績> 第1回 令和3年9月29日 17:00～18:00 第2回 令和4年3月25日 17:00～18:00</p>																															

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 <令和3年度実績>

第1回(年度学科運営:計画事案)

市川委員・谷委員より、デジタル領域の技術力向上、また写真だけでなく動画やWebデザインなどマルチに活躍できる人材育成への要望

- 「制作技術」の授業において、実際の企業内で必要とされている技術をいち早く取り入れ、企業から何が求められているかの指導を実施する。
- 「編集基礎」の授業において、即戦力を排出すべく、より実践に近い形式での授業運営への改変を実施する。

第2回(年度学科運営:進捗事案)

谷委員より学生のコミュニケーション能力に対する改善の要望あり。

- 「スタジオワーク」の授業において、写真業界はサービス業であること意識を持たせ、言葉遣いやコミュニケーション能力を含めた指導を実施する。
- 実際に業界で使用されている画像編集、現像ソフトウェアを新規導入。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

近年の技術・仕事の多様化に伴い高度職業専門人に求められる業務領域は無限大である。このような社会情勢に学生が対応すべく、業界の知識を第一線で活躍している企業等より「現場力」を養うことを基本方針とする。

- <業界の動き> ⇒ 企業人による授業指導を通じて指導・評価 ⇒ 専門教育へ反映(実践授業) ⇒ 「現場力」を養う授業展開
- 情報提供
- 知識・技術指導

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業との連携関係においては、学生が企業の仕事を理解するために、企業から実務に即した講義を受け、実習を通じて打合せ等を重ね、業界・業務水準を体感できる内容とする。

<連携内容の具体>

愛知県で多くの実績のある「株式会社鈴木写真館」や「株式会社スタジオモア」等と連携し、より実務に近い制作の流れを学生に学ばせる授業とする。

照明機材や設備の使用法といった、制作業務の基本となる技術・知識を学んだ後、各自制作課題に取り組み、随時連携企業のスキルチェックを受けながら課題を完成させていく。単なる写真の撮影にとどまらず、それが商品や広告となることを前提としたアドバイスをもとに、職業としての写真撮影・編集のスキルを培っていく。

学修成果の評価について:

制作評価及び中間チェックに関し、学校・企業の双方が得点をつけ、平常点・出席を加味し、成績評価とする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
スタジオワーク	スタジオでの撮影で機材や設備の使用法を学び、あらゆる写真の要素となる光と影を操作する基本を習得することを目的とする。	株式会社鈴木写真館
セッティングワーク	数多くの広告を制作する(株)LUCKIISの指導のもと、高度なライティングや素材別撮影を行い、最新で実践的な撮影技術を身につけるとともに、イメージを形にする表現力を養うことを目指す。	株式会社LUCKIIS
制作技術	実際の企業内で必要とされている技術をいち早く取り入れ、現場で要求される撮影の知識や技術を実習を通して学び、プロとしての活動の技術的なベースを作ることを目的とする。	株式会社スタジオモア
編集基礎	PHOTOSHOPを中心とした編集ソフトの使用を通してデジタルフォトの仕組みやコンピュータの基本を学び、現場でフォトグラファーが求められるデジタル技術を身につけることを目指す。	クリエイティブ イクス
印刷論	写真展で展示するプリントを想定し、プリンターや出力用紙による見え方の違いを確認し、仕上がりを高めるために印刷にまつわる様々な知識を実習を行いながら身につける。	セントラル画材株式会社

<p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p> <p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記</p> <p>教職員研修規定・第6条「教職員の研修」に基づく。企業と連携した研修は、教員に対して職務の遂行に必要な知識、技能等の修得と、学生指導や学生に対しての各種個別カウンセリング能力の向上により、教員の資質等の向上を図ることを基本方針とする。また、研修は、校長により計画・実施され、教員の勤務年数や性行、学生アンケート結果、学生の退学率や就職率等により判断し、当該教員に必要と思われる研修を受けさせるよう努めなければならない。また、教員はその研修に対し企業の指導が効果的に実施されるよう従い、自身の知識、技術の修得や学生指導力等の向上に努めなければならない。</p> <p><研修等計画の具体> ・年度計画・・・基本として、毎年度作成により実施 ※但し、学校運営の進行において、校長が必要と判断した場合、以下のプロセスを経て実施</p> <p>1.「学科長は、企業等からの業界情報および教育編成委員より指摘事項の共有」→2.「学科長は、研修等案(対策・対応案)を作成」 →3.「定期週内会議にて報告し、当該教員の研修時期と内容を定める」→4.「校長の承認」→5.「研修・講習等の参加」</p>
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「東海PGC研究大会」(連携企業等:東海PGC) 期間:令和3年3月18日(木) 対象:写真学科専任教員鶴崎を含む、東海地方を中心とした写真館経営者と従業員 内容:これからの写真館のあり方や、新しい技術に対するディスカッションやスタジオでの実習を行う。</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名:SDGsワークショップ 連携企業等:株式会社JTB 対象:写真学科教職員を含む本校職員、及び姉妹校職員 期間:令和3年1月11日10:00~12:00 内容:株式会社JTB協力の上、グループワーク・カードゲームを通じSDGsの本質を理解する。近年においては学生の社会進出に向け不可欠な知識でもあり、まずは教職員が正しい知識を身につけることにより、学生指導の一助とする。</p>
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「フォトショップセミナー」(連携企業等:公益社団法人 日本広報協会) 期間:2022年6月16日(木)・17日(金)、10月3日(月)・4日(火)、2023年2月16日(木)・17日(金) 対象:写真学科専任教員鶴崎 内容:Adobe社製品(InDesign,Illustrator,Photoshopなど)の使い方、制作ノウハウを学ぶ。</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名ハラスメント防止研修(連携企業等:株式会社インソース) 期間:令和4年8月1日~8月5日 対象:写真学科教職員を含む本校職員、及び姉妹校職員 内容:企業向け研修を手がける株式会社インソースによるハラスメント知識の研修。教育現場とも関わりの深いハラスメントに関して、正しい知識を習得する。教職員の一人一人の働き方、及び教育・指導のあり方を見直す一助とする。</p>

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
「学校点検・自己評価」をもとに企業・業界、卒業生や地域住民を含めた「学校関係者評価」を実施しホームページ上で公開を行うとともに、その結果を踏まえた学校運営の改善に取組み本校学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう学校運営の改善と充実を目指す事を基本方針とする。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> 1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか 2 学校における職業教育の特色は何か 3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生保護者等に周知されているか 5 各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか 3 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化され有効に機能しているか 4 人事、給与に関する規定等は整備されているか 5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 8 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか 5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか 6 関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ実技、実習等)が体系的に位置づけられているか 7 授業評価の実施・評価体制はあるか 8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 9 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか 10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか 13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか 14 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> 1 就職率の向上がはかられているか 2 資格取得率の向上がはかられているか 3 退学率の低減が図られているか 4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 2 学生相談に関する体制は整備されているか 3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか 5 課外活動に対する支援体制は整備されているか 6 学生の生活環境への支援はおこなわれているか 7 保護者と適切に連携しているか 8 卒業生への支援体制はあるか 9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 10 高校高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 1 施設・設備は教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか 2 学内外の実習施設、インターンシップ海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 3 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 1 学生募集活動は、適正に行われているか 2 学生募集活動において教育効果は正確につたえられているか 3 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> 1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 3 財務について会計監査が適正におこなわれているか 4 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 3 自己評価の実施と問題点の改善がおこなわれているか 4 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか 2 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか 3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> 1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか 2 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか 3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか 4 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか
※(10)及び(11)については任意記載。	

- (3) 学校関係者評価結果の活用状況
 (2) 学校運営 「8 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか」
 ●委員評価 ⇒ 時代の順次性にあつた情報システムの導入を依頼
 ○学校活用 ⇒ 評価後 Adachi学園グループ統一の求人情報閲覧システムを開発
- (3) 教育活動 「13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか」
 ●委員評価 ⇒ 指導力には問題ないが、実務を反映できる授業カリキュラム作成を産学連携で行うよう依頼
 ○学校活用 ⇒ 企業との連携を深め、より実践に近い授業への改変
- (5) 学生支援 「8 卒業生への支援体制はあるか」
 ●委員評価 ⇒ キャリア支援などで学校へ来校する卒業生はいるか
 ○学校活用 ⇒ 卒業生が学内ギャラリーでの展示を行うなど卒業後の交流はあるが、転職・キャリア支援での利用も促していく。
- (6) 教育環境 「2 学内外の実習施設、インターンシップ海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」
 ●委員評価 ⇒ 学校と産業界がグローバル社会に参加するにあたり、海外実習の導入は不可欠である
 ○学校活用 ⇒ 海外研修については検討中であるが、Adachi学園グループ全体としてオンライン英語レッスンを導入し準備
- (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
重水 満仁	公益社団法人 日本照明家協会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	業界団体
土屋 敏朗	社団法人 日本広告写真家協会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	業界団体
和田 圭一	株式会社 シーシーワーク	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	企業
田島 治郎	地域住民代表	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	地域住民
二宮 孝	専門学校名古屋ビジュアルアーツ 卒業生代表	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	卒業生代表
久保田 一成	会計士	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日(2年)	法人会計士

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ:年次更新<8月予定>)

URL:<http://www.n-visual.net/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等関係者に情報提供することで相互の対話が促進され、学校内外の実習・就職指導など企業等との連携による活動の充実や産業界のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善をする意図がある。その他、地域住民等に情報公開することで地域に関わる取組みの理解支援を得る。また入学検討者等に対し希望する進路・将来進む業界へ合致しているか明確に示すことや進路指導の活用を資することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1 校長名 <input type="checkbox"/> 2 所在地 <input type="checkbox"/> 3 連絡先 <input type="checkbox"/> 4 沿革 <input type="checkbox"/> 5 施設・設備 <input type="checkbox"/> 6 組織図
(2)各学科等の教育	1 定員数 <input type="checkbox"/> 2 目指す資格 <input type="checkbox"/> 3 取得資格 <input type="checkbox"/> 4 主な卒業後の進路 <input type="checkbox"/>
(3)教職員	1 教職員人数・構成
(4)キャリア教育・実践的職業教育	1 就職支援等の取組
(5)様々な教育活動・教育環境	1 学校行事
(6)学生の生活支援	1 心のケア
(7)学生納付金・修学支援	1 学費 2 修学支援
(8)学校の財務	1 貸借対照表
(9)学校評価	1 自己評価報告書 2 学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

本学ホームページにて、下記8項目について情報を公開しています。

- ・学校概要
- ・学生納付金・修学支援
- ・募集学科・募集定員
- ・組織図
- ・自己評価報告書
- ・学校関係者評価報告書
- ・財務
- ・職業実践専門課程の基本情報

トップページ → 情報公開(最下部右) → 各項目ごとに公開 ・ pdfファイルにて閲覧可能

<http://www.nag.ac.jp/evaluation/nva.html>

URL: <http://www.n-visual.net/>

授業科目等の概要

(工業専門課程写真学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			写真史	写真の「現代史」を中心に取り上げます。 近現代の社会変動の中で近年の写真業界は、初心者からプロといった幅広い層から親しまれている。これから作品制作をおこなう上で国内だけではなく海外の写真業界の現状も踏まえて講義をおこなっていく。 本講義では写真表現技法についても具体的にに取り込み、一年生前期より身近な現代写真状況が講義内容となっている。	1通	64	4	○			○		○		
2	○			文章表現	2年生に向けてプロカメラマンになるという意識を高め、写真業界を知る	1通	64	4	○			○			○	
3	○			印刷論	作品の仕上がりのクオリティーを高めるための実習を行って行きます。プリントの存在感を高めるためにモノクロプリントの階調表現を中心軸としながらプリントで作品を制作するときの方法や考え方を学びます。もちろん「作品」の見せ方、ということについても学んで行きます。作品作りや鑑賞を通して「目」で触れてくるものを感じながら自分にとっての「写真」や「作品」について深く考えていきましょう。	2通	64	4			○	○			○	○
4	○			写真科学	前期の画像基礎理論では、まず写真術の発明から現在までのカメラと写真画像の科学的な発達史を学ぶ。そして、レンズの種類や特性、感光材料の構造と現像メカニズムなど、写真画像を形成している要素について学習し、将来仕事として写真を扱う上で必要な基礎知識を得ることを目的とする	2通	64	4	○			○			○	
5	○			基礎演習	写真を「撮る」、「見る」、「選ぶ」、「構成する」という写真の表現者にはなくてはならない技術と感性を磨く。その導入として、「撮る」→カメラや写真用機材の使い方から撮影方法の基礎、基本用語の解説等、「見る」→自分の写真は当然であるが、国内、海外を問わず幅広い作家の作品にも触れていく事で、イメージの構成力を身につける。その他すべての授業の基礎となりうる技術と感性の習得を目標とする。	1通	128	8	△	○		○			○	
6	○			制作実習	急速なデジタル化が進む写真業界においてデジタル技術の習得は不可欠なものになっている。PHOTOSHOPという写真を加工、編集するソフトを使用して、デジタルフォトの概論から撮影方法、出力に渡り講義・実習を行う。プリント技術の向上も目指し、作品作りの基盤を作る。撮影する、選ぶ、写真にするとといった現場の流れをしっかりと身につけなければならない。	1・2通	256	16	○		○		○			
7	○			暗室実習	暗室演習は、実習を通して、フィルムの構造からファインプリントの制作までを学びます。この暗室演習Ⅰ（前期）では、特に基本的な現像プロセスとプリント制作に重点を置き、繰り返し反復することで基本的なネガを制作し、諧調の整ったプリント制作をすることを目的にします。はじめにフィルムの構造やフィルムサイズによる描写の違いから、フィルム現像のプロセスを学びます。	1通	128	8	△	○					○	
8	○			制作技術	制作技術では、実際の仕事の現場で要求される撮影の知識や技術を実習を通じて学ぶ。自分たちの回りにあるポスターやカタログ、雑誌等の写真は、的確なアングルとフレーミングで切り取られ全てがコントロールされている。それがプロの仕事なのである。写真は、撮影技術や知識が仕上がりに大きな影響を与える表現メディア。ここで学んだ技術が、今後のプロとしての活動の糧となり、また自らの作品制作の表現の可能性を広げてくれる事になるはずである。	1通	128	8			○	○		○		○
9	○			編集基礎	急速なデジタル化が進む写真業界においてデジタル技術の習得は不可欠なものになっている。PHOTOSHOPという写真を加工、編集するソフトを使用して、デジタルフォトの概論から撮影方法、出力に渡り講義を行う。単にPHOTOSHOPの使用方法を学ぶのではなく、デジタルフォトの仕組みやコンピュータの基本を学ぶ。	1通	64	4	○		○		○			○
10	○			カラー実習	本授業ではカメラマンとして必須である基本的な修正作業やトーン調整を覚え、元の写真の良さを最大限に引き出す事を目標とした上で、Photoshopを自由に使えるようになり、独自の表現方法を生み出す事につなげる。また近年、合成の技術を求められる場面が多い為、それを考慮した撮影の仕方、合成の方法を理解し、習得する。	1・2通	128	8	○						○	
11	○			写真批評	カメラマンにとって必要な写真をプレゼンするツール、または能力。まずはポートフォリオ。その用途は、就活から仕事依頼へとつなげるアイテムなど様々である。そのぼーとフォリオを使ったプレゼンの仕方、方法、見せ方、まとめ方など総合的に学ぶ。そしてインターネットを介しての写真の発信を目指し、ホームページ制作にも取り組む。	2通	64	4	○		△	○		○		
12	○			スタジオワーク	スタジオでの撮影は、どんなジャンルに進もうとも身につけておきたい技術のひとつである。自由に写真を作り出す空間であるスタジオの魅力と可能性を感じ、あらゆる写真の要素となる光と影を操作する基本を習得する。被写体を持ち込み、背景を考え、照明を当てる。光を自らコントロールし、イメージを作り上げる。スタジオワークでは、その入り口である照明機材や設備の使用方法からそれらの基本的な操作を、写真を作りこんでいく楽しみと重要性を理解しながら習得することを目的とする。	2通	128	8			○	○		○		○

13	○	表現技術	写真の撮影はもちろんのこと企画、構成、キャプションなど全体的な技術の向上。撮影から展示の流れを繰り返し学び、多くの写真集や雑誌を資料に幅広い知識を身に付け、2年生の卒業制作の土台になるような作品の制作を目指す。	2通	64	4	○												
14	○	セッティングワーク	前期でのライティングや素材別撮影をもとに、さらに具体的な被写体を撮影することで表現の幅を広げます。フード・モデル撮影や大判カメラを使用してより実践的な撮影で技術力を身につけるとともにイメージを形にすることで表現力を養います。そして技術力と表現力を生かして自分の作品を表現する楽しさと難しさを獲得します。	2通	64	4		○	○	○	○								
15	○	映像実習	フォトテクニックはあらゆる写真撮影の現場で必要となる技術を習得することを目標とする。前期はまずカメラと撮影に慣れるということが主眼であったが、後期はより専門的な知識を学び、高度な撮影技術を身につける。接写、ストロボライティング、モーターズポート撮影など、技術的な難易度が高い課題をクリアすることで、撮影の実力と自信を得てほしい。	2通	64	4	△		○	○	○								
16	○	映像表現研究	若手作家やカメラマンの紹介、写真集、写真展などの考察、ゲストを招いてのワークショップなど	2通	64	4	○		○	○	○								
17	○	コマーシャルフォト	制作ゼミにおいては、卒業制作を通して、写真表現全般のスキルアップを目指す。また就職対応としてポートフォリオ制作のアドバイスをを行い、コンペやコンテストへの参加を促し、社会との密接な関係のなかで写真を利用していくことを学ぶ。	1通	128	8		○		○	○	○							
18	○	ポルタージュフォト	制作ゼミにおいては、卒業制作を通して、写真表現全般のスキルアップを目指す。また就職対応としてポートフォリオ制作のアドバイスをを行い、コンペやコンテストへの参加を促し、社会との密接な関係のなかで写真を利用していくことを学ぶ。	1通	128			○		○	○	○							
19	○	エディトリアルフォト	制作ゼミにおいては、卒業制作を通して、写真表現全般のスキルアップを目指す。また就職対応としてポートフォリオ制作のアドバイスをを行い、コンペやコンテストへの参加を促し、社会との密接な関係のなかで写真を利用していくことを学ぶ。	1・2通	128	8		○		○	○	○							
20	○	スポーツフォト	制作ゼミにおいては、卒業制作を通して、写真表現全般のスキルアップを目指す。また就職対応としてポートフォリオ制作のアドバイスをを行い、コンペやコンテストへの参加を促し、社会との密接な関係のなかで写真を利用していくことを学ぶ。	1・2通	128			○		○	○	○							
21	○	写真編集	表現ゼミはあくまでも「表現」のゼミナールである。写真に何ができるか。写真で何が表現出来るか。一人歩きのできる作品創りを0から考える。	2通	128	8		○		○	○	○							
22	○	編集技術	表現ゼミはあくまでも「表現」のゼミナールである。写真に何ができるか。写真で何が表現出来るか。一人歩きのできる作品創りを0から考える。	2通	128			○		○	○	○							
合計				23科目	2048単位時間(128 単位)														

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：所定の課程を修了し、試験に合格した者について平素の成績及び素行を勘酌して認める。 履修方法：2年間4期制の授業を受講。所定の単位を取得しなければならない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。